



快適性に配慮したブロイラーの飼養管理

光線管理を行う際の

「一定期間の暗期の設定」について

ポイント：一定期間の暗期を設定することが推奨されます。

「一定期間の暗期を設ける」ことは生産成績の向上につながります！

鶏は暗期に休息することが知られています。

一部で「明るい時間が多いほど摂食量が増加する」と言われていたこともありましたが、様々な研究において、一定期間の暗期を設けることは連続照明（暗期のない照明プログラム）よりも生産性が向上し、ウェルフェアレベルも上昇するという結果も得られています。

例えば、暗期を含んだ照明プログラムは、連続照明と比べて以下の結果が得られています。

- 1 摂食効率が良い
- 2 脚の損傷が少ない
- 3 死亡率が低い

暗期を設ける際の注意事項は？

- 暗期を設けると、鶏の行動の同調率（一斉に同じ行動をする率）が増加します。明るくなると一斉に鶏が餌を食べたり、水を飲んだりすることから、競合を防ぐため、十分な数の給餌器や給水器を用意する必要があります。
- 暗期・明期時間の急激な設定変更は、生産性（増体や飼料摂取量）や鶏の行動に悪影響を及ぼすことがあります。設定変更は徐々に行われるように計画的に行うことが重要です。
- 暗期・明期の照度が、生産性やウェルフェアに影響を及ぼすことがあります。
- ただし、7日齢までのヒナの場合、長時間の暗期の設定は推奨されません（通常、23時間明期、1時間暗期が好ましいとされています）。

暗期を設ける際には、生産性やアニマルウェルフェアの向上につながるため、種鶏会社や指導機関等と相談しながら、実施することが重要です。

「一定期間の暗期」はどのくらいの時間が必要？

鶏舎タイプや飼養管理方法等によって様々な要因が絡むため、欧米の基準をそのまま導入することは困難ですが、参考のために以下にEUやアメリカを例示します。

E U: 24 時間周期で合計6時間の暗期。少なくとも1回は4時間連続の暗期を含む。



導入して7日以内およびと鳥される前3日間は、24 時間リズムとする。

アメリカ: 最初の週および出荷の最後の1 週間を除いて 24 時間につき少なくとも4時間



の暗期を設定。4時間の暗闇は1時間、2時間又は4時間単位で設定可能。

最終的には、管理者及び飼養者が鶏をよく観察し、暗期の時間が適切かどうかを判断することが重要です。



【参考（暗期の設定に関する各指針の関連する記述）】

■ 「アニマルウェルフェアの考え方に対応したブロイラーの飼養管理指針」 〔(公社) 畜産技術協会策定〕

一定期間の暗期を設けることは、鶏の休息やストレス低減、脚の健康強化等のために必要で、飼料効率や育成率の改善にも効果があることに加え、突然の停電時のパニックの防止にも有益であるとともに、飼料効率や育成率の改善にも効果があることが知られている。

■ 「アニマルウェルフェアとブロイラー生産システム」〔OIE※策定〕（仮訳）

各 24 時間の間に、肉用鶏の休息を可能にし、ストレスを低減し、正常な行動、歩様及び良好な肢の健康を促進するために、適切な連続した暗期が設けられるものとする。照明の変化に徐々に順応するための期間が設けられるものとする。

※OIE（国際獣疫事務局）はアニマルウェルフェア等の国際的なガイドラインを策定・助言する国家間機関



(公社) 畜産技術協会

平成 30 年度 畜産 GAP 拡大推進加速化事業